



ボランティア

Volunteer

Vol.139

賀川記念館
マルシェ
開催中

Now open!

ボランティア 第139号

発行 2025年12月25日
発行所 社会福祉法人イエス団賀川記念館
発行者 馬場一郎



社会福祉法人イエス団賀川記念館
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20
Tel 078-221-3627 Fax 078-221-0810
E-mail kagawakinenkan@jesusband.jp
HP <http://core100.net>



賛助会費・寄附金のお願い

賀川記念館の事業は皆様によって支えられています。

賛助会費・寄附金を下さった方には寄附控除制度が適用されます。

賛助会費

寄附金

【個人】 一口 1,000円より
【団体】 一口 10,000円より

何円からでも可能

振込先

【ゆうちょ銀行】口座番号：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団賀川記念館

賀川記念館は以下の事業を行っています。

- ① 地域福祉事業（天国屋カフェ／外国にルーツをもつ子どもの学習支援教室はせず）
- ② 福祉教育事業（ミュージアム／総合研究所）
- ③ 多機能型児童発達支援賀川記念館くじらぐも

隣保事業

天国屋カフェ一五周年記念事業

◆一五周年記念事業について

十五周年記念企画を進めています。十月十一日には一般社団法人タウンスペースWAKWAK事務所長の岡本工介さんをお招きして講演会を行いました。タウンスペースWAKWAKの取り組みをお聞きし、多くの刺激を受けました。天国屋カフェが地域に根付き、また地域活動の拠点となれるよう努めたいと思います。

記録作りの一環として「レシピ集」も作成しています。これまで天国屋カフェで提供してきたレシピです。これまで関わって下さった方の息遣いを感じています。出来次第、皆様にお知らせいたします。ご希望があれば販売もするかもしれません。

◆一五周年記念講演会

天国屋カフェが一五周年を迎えるにあたり、記念講演会を開催（十月十一日）しました。大阪府高槻市を中心に活動する一般社団法人タウンスペースWAKWAK事務局長の岡本工介さんを講師としてお招きしお話を伺いました。



岡本工介さん

その中心軸を胸に、私は二〇一六年四月にタウンスペースWAKWAKの事務局長に就任しました。めざすのは「ひとりぼっちのいない町」。子どもから高齢者まで、誰もがSOSを発信でき、支え合える地域です。現在、事務局一三名、二〇〇名を超えるボランティア、市域八六団体とも

●講演内容

私は被差別部落に生まれ育ち、地域に育てられてきました。祖父の死をきっかけに自分のルーツと向き合い、アメリカ先住民ラコタ族や黒人公民権運動の地を巡る旅に出ました。そこで出会ったのは、過酷な状況に置かれながらも誇りを失わず、文化を守り続ける人々の姿でした。彼らの生き方は「人として何を軸に生きるのか」という問いを私に問いかけ、地域に根を張って生きる覚悟を与えてくれました。

賀川記念館 天国屋カフェ15周年記念講演会

一般社団法人タウンスペースWAKWAKの取り組み
“ひとりぼっちのいない町”
をつくる

一般社団法人タウンスペースWAKWAKは2024年に日本福祉福祉学協会の「地域福祉優秀実践賞」を受賞されるなど、地域福祉分野やまちづくり分野で全国的に注目を集めています。業務執行理事兼事務局長の岡本工介さんのお話を聞きながら、地域福祉のこと、世代のまちづくりのことなどを考えたい機会にしたいと思っております。

2025
10月11日(土)
14:00~16:00 開場13:30

会場 賀川記念館4階 ホール
※会場定員は60名です。
※オンラインでの配信も準備しています。

講師 岡本 工介さん
一般社団法人タウンスペース
WAKWAK業務執行理事兼事務局長
関西大学人権問題研究センター客員研究員。

参加費 1,000円
※ドリンクつき

※本会事務局の天国屋カフェの営業は13:30までとなります。
お申込みはお電話もしくは予約フォームから

078-221-3627
(受付：火～土 10:00～18:00)

申込受付：9/30(火)

主催：社会福祉法人イエス団賀川記念館 天国屋カフェ

に、多セクター協働の地域づくりを進めています。

背景には、日本社会の深刻な孤独・孤立があります。ある年の内閣府の調査では、高齢者の一六％が「家族以外に頼れる人がいない」と答え、若者でも「誰にも相談しない」が突出して高買ったのです。さらにある年の厚生労働省の国民生活基礎調査によれば、子どもの貧困率は七人に一人、ひとり親家庭では二人に一人。体験格差も広がり、低所得家庭の子ども三人に一人は「一年間で体験ゼロ」という現実があります。

●賀川記念館マルシェ開催

「賀川記念館マルシェ」に変更されて、今回で三回目を数えます。当日は約二五〇名くらいの方にご来館いただきました。近隣のNPO法人や社会福祉法人、地域団体の皆様にお手伝いをいただきお店を出していただいています。出店数が昨年よりも増え、より賑やかになりました。(天国屋カフェ、吾妻婦人会、Birth神戸、地球屋本舗、ほっとすてーしょん、中原ストア、鏡子のひと



りフリマ、神戸いのちの電話、神戸YWCA 九団体)またステージ(友愛幼稚園の先生たち、頌栄短期大学ライブラリーアドベンチャー、三音小町、板垣望、布引中学校吹奏楽部 五団体)にご出演をいただきました。お手伝いいただいた皆様、お越しいただいた皆様、ありがとうございます。

収益(二三八、四四一円)は賀川記念館につながる子どもたちの活動(賀川記念館ははず、賀川記念館くじらぐも、友愛幼稚園、発達支援事業くつく、あづま学童保



育コーナーひまわり)のために使用させていただきます。

出店コーナー
軽食・お菓子・雑貨などを販売します。

ステージコーナー
子ども用の出し物や音楽ステージです！

遊びのコーナー
展示のコーナー
子どもたちの作品が会場に展示されます。

天国屋カフェ 軽食、おかし、ドリンク
吾妻婦人会 リサイクル用品
Birth神戸 グッズ、雑貨
地球屋本舗 フェアトレード商品、書籍・紅茶
ほっとすてーしょん パン・ケーキ
クッキー・手作り雑貨
中原ストア 野菜、雑貨・キ・アクセサリー
鏡子のひとフリマ 菓の市
神戸いのちの電話 手作り品
神戸YWCA はちみつ、紅茶
リサイクル用品

10:45~11:15 作業しり！
高学年児童の先生たち
11:30~12:00 パネルシアターなど
富田短期大学ライブラリーアドベンチャー
12:45~13:15 フルート三重奏
三音小町
13:30~14:00 神戸の歌謡(ソプラノ歌手)
写真家
14:15~14:45 吹奏楽演奏
吹奏楽部
神戸三幸中学校吹奏楽部

●子どもための遊びコーナー
(2階フリールームにて)
●「わたしが」のコーナー

賀川記念館につながる子どもたちの作品を展示します。
また、会場の献り付けにも子どもたちの絵や作品があるかも！？
日頃の子どもたちの様子が伝われば嬉しいです！

※賀川記念館に駐車場はありません。
※内容は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

入場無料

賀川記念館
マルシェ

2025.11.8 SAT
10:30~15:00
会場：賀川記念館4階

出店コーナー
地域のNPO団体、NPOなどが
出品します！
軽食、飲み物、雑貨販売など
をします。

ステージコーナー
ミニコンサートや子ども
用の出し物があります！
大人も子どもと一緒に楽し
みましょう。

展示コーナー
賀川記念館につながる子ども
たちの作品などを展示し
ます。賀川記念館の日々の
活動を知ってください。

※「賀川記念館マルシェ」の収益は、「賀川記念館につながる地域の子どもの活動」に使用します。
①友愛幼稚園、②富田短期大学ライブラリーアドベンチャー、③三音小町、④板垣望、⑤布引中学校吹奏楽部、⑥頌栄短期大学ライブラリーアドベンチャー、⑦神戸YWCA、⑧鏡子のひと、⑨あづま学童発達支援事業、⑩くつく、⑪友愛幼稚園、⑫賀川記念館ははず、⑬賀川記念館くじらぐも、⑭天国屋カフェ、⑮吾妻婦人会、⑯Birth神戸、⑰地球屋本舗、⑱ほっとすてーしょん、⑲中原ストア、⑳鏡子のひと

お問い合わせ
賀川記念館マルシェ実行委員会 賀川記念館
〒650-0005 神戸市中央区東川崎町1-2-22
TEL: 078-221-9027 E-mail: kagawa@kagawa.or.jp



ボランティア募集のご案内

当館の活動は皆様のご支援により成り立っております。賛助会費や寄附金によるご支援はもとより、多くのボランティアにお助けいただいております。感謝申し上げます。

現在、「天国屋カフェの運営スタッフ」「賀川記念館ははずでの学習支援」に関わってくださるボランティアを募集しております。お気軽にお問い合わせください。賀川記念館の活動に加わってください。今後ともよろしく願いいたします。

●外国にルーツをもつ子ども
の学習支援 はいず

◆日々の様子

いつも元気な「はいず」の子どもたちです。火曜日と金曜日の一六時前になると、楽しそうな声が賀川記念館四階に響きます。

長い期間通ってきている子どもたちが多くなってきました。中国にルーツのある子どもたちが多いため、クラス内は中国語が飛び交います。「何喋っているの?」と聞くとき、一生懸命に自分の知っている言葉で説明しようしてくれます。以前は日本語で会話をするのを避けていた子どもと会話ができると、とても嬉しくなります。

◆ボランティア

多くのボランティアにお手伝いをしていただいています。ボランティアの登録数は三九名となっています。高校生から人生のベテランまで多くの方と共に子どもたちの成長を見守っています。

二〇二四年度からはボランティ

ア数名の方に「運営委員」を依頼し、月に一度運営委員会を開催しています。子どもたちの学習状況やはいずの運営状況について協議をしています。日頃関わることで少ない子どもたちの様子を知る良い機会となっています。

運営に関わってくれるボランティアが増えてくださることを願っています。

◆ボランティア研修会

一〇月七日に、公益財団法人神戸国際コミュニケーションセンターと賀川記念館の共催で「外国につながる子どもの支援者研修会」(講師..山野上隆史さん とよなか国際交流協会)を開催しました。外国につながる子どもたちの現状を知り、寄り添うための支援を考える研修会でした。「はいず」からは六名が参加しました。

講師より日本に住む外国にルーツをもつ子どもたちが置かれた状況や、支援の方法についてお話を聞き、また他団体で外国にルーツをもつ子どもを支援する方との交

流ができました。何よりも、他団体との共同でこのような会を開催し、共同の学びの場が与えられたことが大切であると感じています。外国にルーツをもつ子どもたちの支援は、一団体で完結するものではなく、多くの団体とのネットワークを築いていくことが重要です。今後も多くの団体と関係を作りながら、「はいず」の働きを続けていきたいと思えます。

◆高等学校への進学

高等学校への進学が全国的な課題となっています。日本語力の不足、②学習支援の不足、③情報格差、④制度・生活面の壁などが原因として挙げられます。さらに、兵庫県は外国人特別枠入試制度が他自治体と比べて脆弱です。「はいず」にも中学生が在籍しています。学校や他機関とも連携をしながら、子どもたちの育ちを支えていきたいと思っています。

六月には外国ルーツの子どもを支援する県内団体や研究者、教員によって「ひょうご外国ルーツの

こどもネットワーク」が立ち上がりました。賀川記念館もネットワークに加入し、情報共有や学びを続けていきます。

<実施日>

毎週 火曜日・金曜日 16:00~18:00

<参加者>

参加人数: 33名 (小学生 26名、中学生 2名、高校生 1名、保護者: 4名)
ルーツ別: 中国、アフガニスタン、ネパール、インド、インドネシア
フィリピン、ベトナム

<スタッフ>

職員: 1名
ボランティア: 39名 (内 運営委員: 3名)
社会人、大学院生、大学生、高校生

●多機能型児童発達支援
賀川記念館くじらぐも

賀川記念館くじらぐもは、四月以降、職員体制や役割が変わり職員集団としても新しいチャレンジを進めてまいりました。職員体制が変化するというと大変なイメージもありますが、むしろポジティブに捉え、目の前の子どもたちにとってより良い方法やあり方を考える機会だという共通理解を持って日々を歩みました。また、同じ発達支援事業を展開する「くつく」との定例会議や、非常勤職員も含めた合同研修を複数回実施するなど、支援の質を向上させるための取り組みを新たに開始しました。支援の質というものは奥が深く、一朝一夕で向上するわけではありませんが、小さな学びを積み重ねていくことが肝要だと考えています。

一方、今年のくじらぐもでは、就学前の利用児童も増加し、より多様な年代の子どもたちと関わり

を持つことができるようになってきました。一二月時点では、幼児が七名、小学生が十九名、中学生が三名、高校生が六名の合計三十五名となっています。このような状況の中で、小学校への就学や中学校や高校の選択など、次のステップに関する保護者からの相談も多くなってきました。保護者の想いに寄り添いつつ、一人ひとりの子どもにとってどのような道を進んでいくことが良いのかという日々の様子を見ながらにも考えています。

月に2回の土曜日プログラムでは、これまででもクッキングや遠足などを行ってきましたが、今年も様々な活動をしました。クッキングでは材料選びなど、できる限り子どもたち



の意見を取り入れ、自ら選ぶという自由を大切にしてきました。自分たちで考えたり選択することで、より積極的に活動に参加する様子が見られました。また、公共交通機関を利用して大阪のメトロタワーに行ったり、夏には流しそうめんを楽しんだり、秋には近隣の山へ登ったり、賀川記念館マルシェでは自分でお財布を持って買い物



をするなど、多様な体験ができることも大切になっています。これからも子どもたちとともに、一人ひとりが主人公として日々を過ごしていくことができるように、私たち大人も成長を止めることなく歩んでいければと願います。

福祉教育事業

●五館連絡協議会

賀川豊彦記念松沢資料館、本所賀川記念館、賀川記念館、コープこうべ協同学苑、鳴門市立賀川豊彦記念館が集まって情報交換をしております。

東京・本所賀川記念館を会場にして、情報交換と学習を行いました。今年は墨田区社会福祉会館内にある「産業・教育資料室 きねがわ」を見学し、部落解放墨田区民共闘の方から、東京における部落差別についてのお話をお聞きしました。また会館近隣の皮革・油脂工場の見学もさせていただきました。その後は「ほうせん

かの家」を訪問し、「一般社団法人ほうせんか」の西崎雅夫さんより関東大震災時の朝鮮人虐殺、追悼についてのお話をお聞きしました。

【7月～11月実績】

7/5	関西学院大学神学部	講演
7/8	太陽誘電労働組合	講演
7/9	デンソー労組	講演
7/15	ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校	見学
7/16	コープフーズ	講演
7/16	ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校	見学
7/17	ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校	見学
7/17	ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校	見学
7/29	兵庫県生協連	講演
7/30	CK賀川豊彦塾	講演
8/7	CK賀川豊彦塾	講演
8/20	CK賀川豊彦塾	講演
8/27	学習講演会の説明会	講演
8/28	学習講演会の説明会	講演
8/28	CK賀川豊彦塾	講演
8/30	学習講演会の説明会	講演
9/3	CK賀川豊彦塾	講演
9/11	CK賀川豊彦塾	講演
9/16	尼崎市民共済	講演
9/18	鈴蘭台東コープ委員会他	講演
9/18	ひょうご部落解放人権研究所	講演
9/23	全国キリスト教教育主催の会	講演
9/27	大学生協連東海	講演
10/3	東京人権企業連絡会	講演
10/9	なぎさ小学校	学習講演会
10/14	山梨県生協連	講演
10/15	東灘小学校	学習講演会
10/17	特別ニーズ教育学会	講演
10/22	こくみん共済	講演
10/24	こくみん共済	講演
10/29	中央小学校	学習講演会
10/29	こくみん共済	講演
10/30	中央小学校	学習講演会
10/30	堺市人権教育推進協議会	講演
10/31	こくみん共済	講演
11/1	ひょうご部落解放人権研究所	講演
11/1	名古屋地域と協同の研究センタ	講演
11/7	阪神友愛食品	講演
11/12	こくみん共済	講演
11/13	東京労福協	講演
11/14	こくみん共済	講演
11/14	関西学院大学キリスト教と文化センター	講演
11/19	藍那小学校	学習講演会
11/20	上筒井小学校	学習講演会
11/21	桜の宮小学校	学習講演会
11/21	KC北神戸	講演
11/21	兵衛協中部ブロック館長視察研修	講演
11/22	三木南交流センター	講演
11/22	滋賀県生活協同組合連合会	講演
11/25	妙法寺小学校	学習講演会
11/27	桜が丘小学校	学習講演会
11/28	中央小学校	講演
11/28	丸山ひばり小学校	学習講演会
11/30	静岡県労福協	講演

※CK「コープこうべ」の略称

●小学校学習講演会

二〇二〇年より始まった、神戸市の小学校四年生を対象とした「学習講演会」の取り組みが五年目となりました。子どもたちと共に賀川豊彦の生涯と活動について学ぶ貴重な機会が与えられています。二〇二五年度は二

川豊彦さんのことをもっと身近に置いて、もっと深く学び、そしてより多くの人に伝えたいと思うようになりました」と賀川記念館より参加した語り部の感想をいただきました。

七校の学習講演会のお申し込みをいただきました。約一、九四〇名の子どもたちに話を聞いていただきました。教科書では学びきれない賀川豊彦とその仲間たちの姿を伝えていきたいと思っています。学習講演会では、「共に生きる」という単元テーマに沿って、社会の困難な状況のなかで、貧しい人々と共に生き、支え合っていた賀川豊彦の姿を中心に紹介しています。

学習講演会の中で一番印象的なのは、子どもたちの新鮮で素直な反応です。話をさせていたただく中で、一生懸命にノートにメモをとる姿があります。中にはノートにびっしりと取られた

メモを見せてくれることもありまます。子どもたちから寄せられる感想には、ハッとさせられる正直な気づきが詰まっています。「賀川さんがたくさんお金をもらったのに、困っている人のために使ったことに驚いた。」

「自分のことよりも人のことを考えられるのがすごいと思っただ。」などです。これらの反応は、子どもたちが、単に知識としてではなく、彼らなりに自分自身の問題として賀川豊彦の生き様を真摯に感じ取っている証拠です。この、子どもたち反応こそが、私たちの活動を続ける大きな原動力となっています。

上内鏡子牧師の聖書の話



彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上にとまった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

マタイによる福音書 2章 9節～11節

皆さんは、どのようにクリスマスをお過ごしなすか？ クリスマスケーキやチキンを食べたり、プレゼント交換をしたり、楽しいことが待っているのかもしれない。また、子どもの頃は、サンタクロースを待ち焦がれていたかもしれない。海外では、クリスマスカードを送ったり、ツリーを飾ったり、クリスマスキャロルを歌ったりする伝統や文化があって、各地でそれぞれ喜びをもってお祝いする仕方があるようです。ただ、その喜びは、美味しいものを食べたりプレゼントをもらったりする喜びではなく、救い主のイエス様がお生まれになったことを祝う喜びです。

学生の頃に聞いたポーランドの子どものクリスマスが忘れられません。その昔、ポーランドはとても貧しい国で、ケーキやプレゼントなど贅沢な楽しみがなかったそうです。子どもたちの一番の楽しみは何だったと思いますか。それは、クリスマスイブの夜、窓から空を眺めて、一番星を探し当てることだったそうです。寒い冬空を窓辺で見上げながら、子どもたちが一生懸命星を探す様子は、イエス様がお生まれになった夜を彷彿とさせます。質素な祝い方ですが、なんと豊かな時間の過ごし方かと心が温かくなります。

また熱帯地域などによっては、クリスマスツリーに使われる常緑針葉樹はありません。代わりに、星をしるしとしていたりするところがあります。わたしが長く生活していたフィリピンでは、ツリーよりも星が多く飾られていました。美しくデザインされキラキラした星の電飾や竹などで作られた星の飾りです。街の至る所で飾られ、とても賑やかになります。

実は、聖書にちなんだクリスマススの忠実な祝いは、ツリーやクッキーではなく、星だと思いません。なぜなら、夜空にひときわ煌めく星が、イエスの誕生を知らせ、導いたと記述されているからです。星は、暗闇の中でこそ輝きます。現代の暗く不穏な時代にも輝く星を見つめたいと思います。救い主イエスのように、希望と愛に満ちた星の輝きが、きつと明るい未来へと導いてくれると信じたいからです。

とっておき

天国屋カフェのレシピ



鶏照り焼き

【材料】(2人～3人分)

とりもも肉	1枚 (300g～400g)
白ネギ	1本 (5cm～6cmのぶつ切りにする)
ニンニク	1かけ (縦半分に切る)
醤油、みりん、酒	大さじ2杯

【作り方】

- ① あたためたフライパンにニンニクを塗りつける。(やけどしないように気をつけて！)
- ② とりもも肉を皮面から焼く。皮面に焼き色が付いたら反対側も焼く。
- ③ とりもも肉を取り出して、調味料をいれる。とりもも肉と白ネギを入れ、蓋をして弱火で煮る。

油を使わずにフライパンにニンニクをぬりつけるのがポイントです！ (い)

【編集後記】

天国屋カフェ十五周年記念講演会で、一般社団法人タウンスペース WAKWAK の取り組みについて話を聴いた。メディアでも取り上げられる華々しい活躍の裏には、地域との確かなネットワークを築き、地道に協働を続けるという活動の真髄がある。▼このタウンスペース WAKWAK の活動は、賀川記念館の歩みに通じる。賀川記念館の働きもまた、地域の人々と協働しつつ、地域のために尽くす歴史をたどってきた。制度なき時代から、地域のニーズを敏感に感じ取り、必要な活動を立ち上げてきたのだ。▼神戸市第一号の「学童保育」創設をはじめ、老人クラブ「吾妻ときわ会」の誕生、「かがわオモニハッキョ」の実施、障がいのある子どもや青年のための活動創設など、多岐にわたる取り組みは、すべて職員と地域の方々が共に作り上げた協働の証である。この姿勢は、創設者である賀川彦の働きから一貫して受け継がれている。▼時代が移り制度が整備されてもなお、「生きづらさ」を感じている人々は少なくない。賀川記念館の使命は、まさにその人々と共に生き、支え合っていくことにある。これからも、社会で見過ごされがちな「生きづらさ」を敏感に感じ取り、地域に確かなセーフティネットを築きながら、制度にとらわれない柔軟な働きを続けていく。(お)